

反改憲運動

通信 第6期

1部 200円
2011.4.27 No. 23

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000円 (2010. 6~2011. 5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

「福島原発事故緊急会議」スタート!—— 私たちも参加・協力します

2011年3月11日以前、以後。この世界を失ったような、新たな「敗戦」体験のごときものが、マスコミで語られだしている、決定的な体験の日の前と後。この断然と、それでも連続している社会・人間の歴史について、これ以後この日本列島住人は長く語りついでいくことになるだろう。私は「反安保実行委員会」のニュース(4月2日<29>号)に、以下のよう書いた。

「三月十一日からまったく別の世界。別の時間に滑り落ちてしまった。とてつもない無力感とひたすらなる焦燥感にまみれた日々が始まってしまったのである。地震で本棚がいくつも倒れ、本の山でドアが開かなくなってしまった部屋を二日ばかりでこじあけ、なんとか机にたどりつけるようにした。その本の山の谷間に存在している机で、今この原稿を書き出している。日々確定される死者が増大し続ける中、直撃された『東北』の一瞬にして津波に家が人が街全体が、のみ込まれて行く映像が全局で一日中流されつづけているテレビを見続けている日々、そしてやっぱりの福島原子力発電所の放射能漏れの日々の拡大。くりかえされる余震に脅えながらの日々(余震への脅えは最大の被害地『東北』から『関東』まで文字通り地続きの事態)。そして始まった計画停電というの名の無計画停電(東電による、原発がなくなると大変だぞ、との操作的キャンペーンと思わせるていのもの)がうみだす生活パニック。国策として原発をつくり続けてきた原子力(電力)産業と政府は、最終的な危機にふれずに、まだまだ『安心』『安全』発表をくりかえしているが、そのキャンペーンに都合のわるい本当の事実は発表されてはいない。／大地震という『自然災害』の恐ろしさに脅え、無力感に落ち込んでいられないと思い直して、いくつかの運動体の緊急会議に出席し、こんな時、私たちはどんな声を発し、どのように動くべきかの討論をしつつ、各運動体(個人)が連絡し合って、最低限の情報交換と、反原発運動体を軸に据えて広くスタンスを共有するための会議をつくりだすべく、私は動き出した」。

この後、ここで私は長く協力関係にある反原発の運動団体「たんぼぼ舎」の作業の手伝いに、まず出かけたと書いている。私は、そこのごった返すような忙しさを目の当たりにし、テレビの御用学者のならばコメンテーターのなかに混じって、広く反原発運動のセンターのごとき活動を持続している「原子力資料情報室」の知人・友人の動きなどを眼にした(「資料情報室」は電話をしてもつながらない時間が長かった)。反原発運動の方から、広く、いろんなテーマで運動している個人・団体が連絡結集していく動きが、すぐに創りだされることはあり得ないと判断するしかなかった(忙しすぎる!)。

そこで私は、自分が直接関係している運動体(『反改憲』運動通信)、「反安保実」、「反天連」、「ピープルズ・プラン研究所」、「市民の意見30の会」などの個人、あるいは事務局)で相談しつつ、以下のような〈有志〉たちの呼びかけ文を発することにした。

「〈私たちは今、ともに何をなすべきか〉緊急会議を呼びかけます／今、大地震・津波、原発崩壊という恐るべき事態に私たちは直面している。この局面で、私たちはどういう声をあげるべきか。政府と東電とマスコミに私たちの命を預け、おもちゃにされている状況を、運動的に突破していけるか。／自分の担う運動課題を超えて、広く共同の動きを作り出していくことが必要だと考えた〈有志〉が集まり、『原子力資料情報室』『たんぼぼ舎』などの反原発運動体も囲んで、情報交換と、今、ともに何をなすべきかを活発に討論する集まりを、まず持とうと動き出しました。この『緊急会議』に一人でも多くの団体・個人がお集まりくださるよう、お誘いします」。

この「福島原発事故緊急会議」(という名に落ちついた)は、「共同デスク」「院内集会」そして大きな全国的な脱原発行動への合流などに向けて、今、動き出している。思いのほか広く、人びと(運動団体)が結集しつつあるこの「緊急会議」の一翼を、私たち(「反改憲」運動通信)も脱原発をめざして積極的に担い続けていくつもりである。(天野恵一／事務局)

原発止めなきゃ生きていけない! という思いは日に日に強まるばかりだが、下手をすると国内の増設ストップが海外への輸出確保と引き換えに実現することになりかねない。私の眼にとまる範囲だと、ヨルダンへの原子力技術供与のための協定可決(3月31日)なんてニュースが気になる。東電社長が「原子力プラント輸出見直し」を発言したのはプラス材料だが、政策全体の問題だ。▶かたや中東では、韓国に原発を発注したUAEの

憲 喧 嘩 場

ように、カネさえつぎ込めば環境問題は科学技術で一気に解決できるという発想が顕著だ。非軍事でも核の利用は「イスラームに反する」という見解をちゃんとしたイスラーム学者に出してもらいたいものだが、実態は反対で、戦後の日本と同様に「核の平和利用」こそが正義だという前提がある。イスラエルの核がこの地域にもたらした混乱の大きさに憤るだけでは不十分で、越えなければいけないものが他にあると思う。(た)

東日本大震災の被災者に心をよせ、 生かそう憲法 輝け9条 2011年5・3憲法集会&銀座パレード

大地震、大津波、最大規模の原発事故という東日本大震災の3重苦の最中、今年で11回目になる東京の「5・3憲法集会」が「東日本大震災の被災者に心をよせ、生かそう憲法 輝け9条」をメインタイトルに掲げ、5月3日(火)、日比谷公会堂を中心に開催される。今年の集会でのスピーカーは恒例になった社民党、共産党の党首と、三宅晶子さん(千葉大学教授)、伊藤千尋さん(ジャーナリスト)だ。音楽の出演は「寿kotobuki」さん。今年の集会の特徴は、東日本大震災の被災者の皆さんに心を寄せながら開かれるところにあり、実行委員会は会場でのカンパは全額救援寄金にあてることにしている。

この大震災下での憲法問題は極めて重要な局面を迎えている。このところ政界では民主党、自民党を中心にした大連立政権の話題が浮き沈みしている。

ねじれ国会の中で窮地に陥った菅直人首相は、かつてない大震災に与野党あけて対処するためとして、自民党の谷垣総裁に「副総理兼震災復興相」として入閣要請を行い、谷垣総裁は「あまりにも唐突な話」とこれを拒否した。しかし、大連立内閣構想の火ダネはその後もくすぶりつづけている。

自民党の中では補正予算、復興構想会議、閣僚ポストなどの巨額の復興関係事業の利権にかかわりたいという願望があ

る。今後、「菅おろし」などの与野党の駆け引きを経て、一挙に保守系諸政党の糾合による大連立政権＝挙国一致内閣が誕生しかねない。

この「連立」は総選挙を与野党で対立して有権者に選択を迫った民主・自民両党の政策的相違をあいまいにして大政翼賛政権的な状況を作るもので、それは政党政治と民主主義を危うくする。もしもこの大災害に与野党あけて協力する体制をつくるのであれば、ただちに災害の対策協議の場を設置すればよいだけのことだ。大連立という野合政権の試みは、与党にとっては政府の災害対処の責任の所在をあいまいにする政権延命のための不謹慎な政略だ。そして、油断がならないことには、すでに自民党の一部から出ているように、この大連立政権に憲法問題も扱わせようという動きもあり、連休を前後した憲法審査会規程制定強行の動きと合わせて、震災救援への自衛隊の出動を礼賛する空気ともあいまって、9条改憲につながっていく恐れがある。

ことしの5・3憲法集会は、こうした動きに警鐘を打ち鳴らし、9条改憲阻止、憲法を生かし、実現していく新たな運動を構築していく出発点にしたいと考えている。

(高田健／許すな！憲法改悪・市民連絡会)

([EPA](#) 集会・行動情報欄参照)

立川憲法集会——今、憲法集会に問われていること

震災から1か月後、4月14日の東京新聞夕刊に「102歳男性自殺か 飯館村」という小さな記事がのった。男性は村で最高齢。家族は健康被害を恐れて自主避難したが、男性は一人で村に残った。飯館村は原発から30キロ圏外にあるが、地形から放射性物質の累積量が高く、折から政府は「計画的避難区域」に指定する方針で、全村避難が検討されはじめた矢先だった。100歳の母を持つ者として、身につまされる思いにとらわれた。

男性の、102歳はまれだ。本来なら長老として大事にされ寿命を全うする人だったろう。

102歳ただ一人での判断はどのようなものだったのだろうか。「自分は長生きをし過ぎた」という思いの残る自死だったのではないか。

中国で日中戦争体験者に話を聞く旅をしたとき、「家族で山に逃げたが、祖母(祖父)は残った。日本軍の攻撃がおさまって村に帰ると、彼らは亡くなっていた」と話す人がいた。その多くが日本軍に殺されていた。

災害や戦争は老人たちを直撃する。“反原発”をさぼってきた日頃の自分が悔やまれる。

立川の憲法集会は5月3日。ちょうど準備が本格化する時期に震災が起こった。当初は公共施設が夜は閉鎖になり、市民運動の中にさえ「自粛ムード」が蔓延した。「こういうときに発言を続けることが大事だ、できる範囲で集会を準備しよ

う。立川からも避難という事態になったら、それはそのときだ」、と思いを定めることになった。

今年のテーマは「東アジアに戦争を起こすな!」。韓国出身のイ・ヨンチェさんを講師にむかえる。現場からの発言では、「日本社会の“貧困”の先に」とテーマを鮮明にして「対論」を持つ予定だ。震災でこれらのテーマはかすんでしまうだろうか? いやちがう。

自衛隊が10万人規模で動員され、「ともだち作戦」の米軍とともに「日米同盟」を際立たせようとした。政府は中国からの援助は拒否した。震災から一ヶ月後には、欧米諸国による次期戦闘機売り込みが本格化した。

被災者の50パーセント以上が失業・解雇状態にあり、都市部でも災害を機に失業者が激増している。原発事故現場の労働者は、今では多くがハローワーク以外から調達されているという。

戦争と核、災害と貧困が連鎖する構造は、この国に深く根を下ろしている。その連鎖を断ち切り自由になる道は遠い。だが広島・長崎原爆の被害を受けた日本が、一転して加害国になった今日の事態を直視することからしか、これからの私たち民衆の安全保障の道を探ることはできないだろう。今年の憲法集会をその一歩にしたい。

(加藤克子／市民のひろば・憲法の会)

([EPA](#) 集会・行動情報欄参照)

ひろげよう九条のこころ、なにわの人情が平和をつむぐ 憲法記念日のつどい(大阪)

今年の九条の会・おおさかの憲法記念日集会は、例年とは少し趣が違い、「ひろげよう九条のこころ、なにわの人情が平和をつむぐ」と題して二部構成で行われることになりました。第一部は、元琉球大学助教授で現在関西大学法学部教授の高作正博さんの「憲法9条と東アジアの平和」とする基調講演です。

高作さんは「沖縄の復帰運動は単に日本に復帰することを求めたのではなく、沖縄の人々は日本国憲法の下に復帰することを求めたのです」「沖縄では(人種や地域によるのではなく憲法の下での)ドイツ統一の20年以上前から憲法の価値にもとづく日本への復帰という議論が行われていたのです」「米軍再編が進められていますが、その大きな狙いは米軍と自衛隊の一体化です。それは計画策定、訓練・演習、基地使用の一体化であり、情報共有・情報協力などとして実現されつつあります。最終的には海外での武力行使も共同で行うことが考えられています」「自衛隊が米軍と共に海外で武力行使することは集团的自衛権の行使であり、憲法違反となります。そこで政府は集团的自衛権を容認することを検討しているわけですが、今日の米軍再編による米軍と自衛隊の一体化はいわば『改憲の先取り・既成事実化』と言えるのです」(伊藤塾・沖縄スタディツアーでの講演)と述べています。

東日本大震災の過酷な状況下、また日米両政府の意図的な

問題隠しで普天間基地の永続的使用や辺野古新基地建設、高江のヘリパッド建設問題がややもすると後景に退きがちになる中で、憲法記念日にこうした観点から高作さんの提起を受け、東アジアの平和を作る観点から憲法9条をとらえ返し、考えるのは意義深いことです。

今年の特徴は、第二部にあります。第二部では落語家桂吉弥さんのなにわ人情話の本格的落語を聴く。吉弥さんは、九条の会・おおさかの呼びかけ人でもある桂米朝さんの一門の中堅落語家でNHKの朝ドラ「ちりとてちん」で「徒然亭草原(つれづれていそうげん)」という落語家の役で出演し、NHKの法律相談番組にも出ているのでよく知られています。高作さんの硬調な講演を受けた後、「なにわの人情話」で、こころを和らげながらアジアの平和を考えるのも意義あることでしょう。

今年は、入場者が多くなることが予想されるので、あらかじめ予約券を入手することが求められます。予約券は電話での申し込みが可能です。(星川洋史／関西共同行動)

【予約券の申し込み先】

〒593-8301 堺市西区上野芝町2丁5-1-905

永廣方「九条の会・おおさか」

電話：090-3715-3586(永廣) とめよう改憲！おおさかネットワーク(中北法律事務所)、関西共同行動・星川でも対応できます。

放射能は誰に降り注ぐか

清水正孝をはじめとする背広にネクタイの20人。東京電力の経営者連中は、大株主である生命保険会社、金融機関、東京都に配当するために、東京・内幸町の本社でコストカットに血道をあげてきた。電力総連や電機連合など巨大組合に支えられながら、彼らは年に7億円を受け取って、三菱重工、日立、東芝、財閥系プラントメーカーと、そこに何層にも連なる「協力会社」、そこに買収された地方の地域バス連中を潤してきた。

彼らに放射能など降り注ぎはしない。

巨大な原発利権にあずかることのなかった非正規労働者たち年間数万人は、生きる金を稼ぐために原発に向かっている。これは原発立地の現地に限られる話ではない。携帯で、ハローワークで、寄せ場でと全国各地から集められた非正規労働者が炉の近くに資材を運び、バルブを閉め、水をふき取り、片づけている。放射性物質に汚染された区域で作業して1日8千円。彼らのビジネスの残りカスを、さらにきつく絞り取ったようなペラペラの賃金で、癌や白血病、「ぶらぶら病」と呼ばれる原因不明の体調不良に苛まれるようになる。

原発被曝は何も3.11以降の話ではない。およそ40年にわたって、年間数万人の非正規労働者の頭上に肺の中に降り注いできたのである。また原発被曝は何も3.11以前の話ではない。いままさに稼働中の原発では同様の光景が続けられている。

そして今後は「復興」のために、放射性物質で汚染された瓦礫や土壌を片付ける仕事で、さらに多くの非正規労働者が被曝しなければならない。放射能は誰にでもひとしく降り注ぎはしない。東電の社長清水正孝に降り注ぎはしない。それは棄民化された私たちの上に強く降り注ぐ。

私たちは7回目となる自由と生存のメーデーを呼びかける。福島原発事故が露出させた棄民化状況をとらえ、私たちが自由と生存を獲得するために、5月3日(火・祝)に「3.11／逃げる・つながる・追いつめる」をテーマとした集会とデモを行う。「原子力産業と労働者——『フクシマ50』の真実」と題した集会では、これまで40年にわたって原発労働者の姿を追いつけてきた写真家の樋口健二さんにお話をうかがう。デモは新宿中央公園に集合して新宿をまわるサウンドデモを予定している。以下の時間帯で行うのでぜひ参加してください。

(山口素明／自由と生存のメーデー実行委員会)

◆集会：15時半開場。フリーター全般労働組合事務所(京王新線初台駅から徒歩3分)

◆デモ：18時半集合。新宿中央公園水の広場

◆連絡先：フリーター全般労働組合(03-3373-0180 union@freeter-union.org)

※詳細は以下。<http://2011mayday.blogspot.com> twitter @mayday_0503 ハッシュタグ #mayday_0503

たんぽぽ舎＋反安保実「半日でわかる原発の基本講座」

4月17日、たんぽぽ舎と私の参加する反安保実行委員会が共催して「半日でわかる原発の基本講座」が、東京・水道橋の東京学院で開催された。この日の講座は急きょ設定されたものだったが、狭い会場が満員となる120人が参加した。「共催」といっても反原発運動に関しては蓄積のない私たち反安保実としては、「たんぽぽ舎」の力をお借りして、「3・11」以後の事態のなかで急速に政治・社会のあり方を問う運動の根本的テーマとなった原発問題を自ら学び、同時に、私たちがこの間、大きなテーマとしてきた「日米共同作戦体制」が「災害救援」作戦の中でいかに進められてきたかを検証するものとして取り組んだ。

まず最初に政府や東電のまき散らすウソを分かりやすくあばく「源八おじさんとタマ」を上映した後、たんぽぽ舎から「原発問題の基礎」について3人が報告した。原田裕史さんは「被ばくの話」と題して、放射線、外部被ばくと内部被ばく、子ども・妊婦への影響、避難措置のあり方、食品汚染などについて、限られた時間の中で包括的かつわかりやすく説明。柳田真さんは「原発なしでも電気は大丈夫」と題して、「原発がなければ電力が足りなくなる」というキャンペーンがいかにゴマカシに満ちたものであるかを語った。柳田さんはたんぽぽ舎が地震による原発の大惨事に警告を発しつつけてきたことを紹介しながら、「いまこそ原発やめよう」運動を大きく作り出すこと、そのためにさまざまな社会運動を担ってき

た人びとの総括が必要であること、そして東電前アクションや4月10日の高円寺デモ1万5000人の大結集など新しい可能性が拡大していることに希望を託した。

山崎久隆さんは「福島原発震災はなぜ起きたのか」というテーマで巨大な地殻変動と大規模地震発生のメカニズム、福島第一原発事故の特徴などを詳しく説明しながら、TVなどに出てくる専門家の説明のでたらめさなどについて語った。

休憩をはさんで、反安保実の天野恵一さんは米軍と自衛隊の救援活動での「活躍」を評価しないとして「産経」が沖縄の2紙をやり玉にあげていることや、原発災害の拡大防止のため東電が必死になっているという報道が、実は下請労働者の危険で過酷な被曝労働に支えられているものであることを明らかにした。国富は、自衛隊と米軍の大規模な「救援」活動が「有事」軍事作戦に他ならないことを示し、戦争のための自衛隊を解体し、装備・訓練の面でも災害対策・人命救助・救援に特化した組織への改編をめざす論議を本格的に開始する必要を訴えた。東電前アクションの園良太さんは、東電の責任を社会的に問う直接的行動の意味を強調した。

質問・討論の中では、差別に満ちた社会の構造、情報操作と隠ぺいなどについても活発な論議が交わされた。またフロアから多摩市の阿部市長も参加者の一人として発言した。

(国富建治／事務局)

◇ 番外編 ◇ 反原発を読む

反原発本を読んでも、もう遅すぎるのか

福島原発事故は、政府・マスコミの報道管制が敷かれ、御用学者の楽観論評で国民は欺かれるだけでなく、自らのいのちと子どもたちのいのちと未来のいのちまで危険になっている。緩慢なるジェノサイドはすでにはじまっているのだ。東電や日立、東芝などの企業幹部、政府、マスコミの幹部たちの犯罪的言動をしっかりと記録し、落とし前をつけてもらう必要がある。

チェルノブイリ原発事故当時、ゴルバチョフ大統領の科学アドバイザーを務めたアレクセイ・ヤコブロフ氏の最近の発言によると、チェルノブイリではすでに100万人以上がガンで亡くなっているという。10周年に刊行された小社の『チェルノブイリの惨事』(ロジェ&ベラ・ベルベオーク著、今月新装版刊行)によれば、数10万から100万人が亡くなると予想していたが、それを上回っている。3.11前に校了して3月末に発売された『低線量被曝の脅威—原子炉周辺健康破壊と疫学的立証の記録』(ジェイ・マーティン・グールド著、肥田舜太郎他訳)は、平常時でも低線量の内部被曝でガンが多発することを全米の公式記録を解析して立証しているが、今回の事故ではどうなるのか恐ろしいばかりだ。チェルノブイリでの30キロ圏避難がどういう危機を招いていくのかは、ソ連体制下の報道統制の中で現地紙を丹念に読み込んだ『ドキュメント チェルノブイリ』(松岡信夫著、1988年刊、新

装版今月刊)に詳しい。『破綻したプルトニウム利用』(原子力資料情報室・原水禁編著、2010年)によれば、MOX燃料を装着した女川原発事故想定によれば、致死リスク50%圏が110キロ、10%が332キロに達するという。福島第一3号炉もMOXで、この情報をほとんど流さず、冷却に必死になったのもうなすけよう。

原発は地球にやさしいなどとタレントが宣伝していたが、そうでないことは『Q & A 原発は地球にやさしいか』(西尾漠著)に詳しい。なぜ脱原発をしなければならないかは『Q & A なぜ脱原発か?』(西尾漠著)、『原発の即時廃止は可能だ』(ベルベオーク著)、再処理の危険性は『Q & A むだで危険な再処理』(西尾漠)、放射性廃棄物問題は『Q & A どうする? 放射能ごみ』『核廃棄物は人と共存できるか』が解説してくれる。核燃料サイクルは『高速増殖炉もんじゅ事故』(緑風出版編集部編)や『核燃料サイクルの黄昏』(高木仁三郎ほか)で明らかなのに、まだ推進側は諦めない。住民が提起したもんじゅ差止訴訟については『高速増殖炉の恐怖 [増補版]』(原子力発電に反対する福井県民会議)に詳しいが、最高裁は住民を敗訴にする。政府から司法まで腐っているが、放射能は彼らを含めて標的にするのだ。

(高須次郎／緑風出版)

反改憲ニュースクリップ

2011年4月9日～4月20日

原発の状況いぜん悪化の一途

【4月9日】〈憲法のつどい〉作家井上ひさしさんが亡くなって1周年を迎えた夜、「憲法のつどい鎌倉－井上ひさしの言葉を心にきざんで」と題した講演会が神奈川県鎌倉市で開かれ、約1500人の聴衆が参加した。井上さんが呼び掛け人の1人だった「鎌倉・九条の会」の主催。作家の大江健三郎さんは「九条を文学の言葉として」と題し、「初めて憲法を読んだとき、言葉として感動した」と話した。不安社会を生きる」と題した講演で経済評論家の内橋克人さんは、東日本大震災の被災地にさまざまな励ましの言葉が投げかけられる状況について「大義を嫌った井上さんならばどう言っただろうか」と問いかけた。

【4月10日】〈デモ〉東日本大震災による原発事故を受け、東京のJR高円寺駅周辺で反原発を訴えるデモ行進が行われた。高円寺でリサイクルショップなどを営むグループ「素人の乱」が呼び掛け、ツイッターなどで情報が広がり、約1万5千人が参加。思い思いのスタイルで「原発はもういらない」と訴えた。デモ行進は高円寺中央公園からスタート、ロック、レゲエ、ちんどん屋などの生演奏とともに、駅前などを練り歩いた。防護服を着た人や「NO NUKES」と書いたスケートボードを掲げて歩く若者も。**〈浜岡〉**山梨県内の主婦らでつくる市民団体「虹の天使」が甲府市内で、福島原発の事故を受けて静岡・浜岡原発の停止を求めるデモ行進をした。約100人が「浜岡原発を止めて」などと書かれた横断幕やプラカードを掲げ、JR甲府駅周辺を約1時間にわたり行進した。東京電力山梨支店前では、原発事故での死亡者に黙とうをささげた。今後も月1回、県内各地で原発停止を訴える行進をしていく考え。

【4月13日】〈柏崎原発〉東京電力の清水正孝社長は記者会見し、2007年7月の中越沖地震で被災して点検中の柏崎刈羽原発3号機について年内の運転再開を目指す考えを示した。福島第1原発事故後に、東電トップが柏崎刈羽原発の運転再開スケジュールに言及したのは初めて。同原発の地元では大量の放射性物質を放出した福島第1原発事故を受けて原発の安全性への不安を抱えており、さらに事故の収束見通しが立たない中での発言だけに、反発を招くのは必至の状況だ。柏崎刈羽原発では、中越沖地震を受けて全7基が停止していたが、1、5、6、7の各号機が国から安全性の確認を受けて運転を再開。3号機は東電による点検が最終段階に入り、国や専門家による県技術委員会が安全性に関する審議を行っている。

【4月14日】〈反原発〉福島第1原発の事故を受け、反原子力茨城共同行動（世話人・河野直哉茨城大教授）など反原発の7団体は14日、原子力施設の被災状況や対応についての情報

の公開、今後の災害対策の強化、停止中の東海第2原発の再開断念などを県と日本原子力発電、日本原子力研究開発機構に申し入れた。このほか▷放射性物質の厳重管理▷東京電力と国に対し、放射性物質の流出阻止や事故の早期収束、農林漁業者への十分な補償を求める▷原子力政策の転換——なども求めた。

【4月19日】〈世界の世論〉各国の世論調査機関が加盟する「WIN——ギャラップ・インターナショナル」は福島第1原発事故を受けて世界の47カ国・地域で実施した世論調査結果を発表、原発反対が事故前の32%から11ポイント上昇して43%となる一方、支持が57%から8ポイント下落して49%となり、賛否の差は25ポイントから6ポイントに縮まった。調査は3月21日～4月10日、日本やパキスタンを含むアジア各国のほか、北南米、欧州、アフリカなど計3万4千人以上を対象に行われた。同社の専門家は「原子力は過去10年間、国際世論の安定した支持を得ていたが、世界の多くの人々が福島事故を懸念して反対へ立場を変えたことになり、今後は議論が活発化しそうだ」と分析した。日本やカナダ、サウジアラビアなど八つの国・地域で、事故後に賛否が逆転し反対が上回った。また、日本の復興の見込みについては、全体の30%が「震災前の水準に復旧する」、18%が「さらに発展する」と回答し、全体で48%の人が楽観的。日本では、両者を合わせた楽観的な意見は35%にとどまった。**〈原発〉**福島第1原発と同型の原子炉を持つ米東部バーモント州のバーモント・ヤンキー原発をめぐり、運営する電力会社エンタジーは来年3月で同原発の運転停止を図る州知事らの判断は無効として同州の連邦裁判所に提訴した。AP通信によると、バーモント州は原発の運転延長の是非を判断できるとする州法を持つ全米で唯一の州。電力会社と州による異例の法廷闘争に発展しそうだ。同原発は1972年に運転を開始。来年3月の使用期限を前に米原子力規制委員会が東日本大震災後の先月21日に20年間の使用延長を認めた。しかし、シャムリン知事は福島第1原発事故を引き合いに、州法に基づき運転延長を認めない方針を表明。これに対し、エンタジーは「原発の安全性は連邦政府が判断する」として、州法は無効と主張している。この原発では、地中パイプから放射性物質が漏れていることが昨年判明。地中パイプに関する事前説明がなかったことも含め、州側のエンタジーに対する反発が強まっていた。**〈原発〉**福島第一原発の事故で、政府が一時、志願して現場で救命活動にあたる民間作業員や公務員に限り、放射線の被ばく線量を「限度なし」とするよう検討していたことが分かった。

【4月20日】〈放射能〉福島、宮城両県の学者・研究者、医師、弁護士175氏が連名で、東京電力福島第1原発事故による環境中の放射性物質データの定期的な公開などを求める緊急アピールを発表した。アピールではこれ以上の福島第1原発の状況悪化と被害拡大阻止のため対応を抜本的に見直し、世界の原子力専門家、気象学者、海洋学者、農学者等を結集して対応し、同時に正確な情報を迅速かつ適切に公表していく体制が求められていると主張。呼びかけたのは、青木正芳・元日弁連副会長、安藤裕規・元福島県弁護士会会長ら。

私も一言 129

渡辺厚子 (元都立北特別支援学校教員)

停職6か月処分、糾弾!

2011年3月23日は、現職最後の卒業式であった。「日の丸・君が代」の強制に抗し、不起立で不服従を表明した。「渡辺先生、ご起立ください」「起立しません」「〇時〇分“現認”しました」。警察用語がいくとも簡単に口にされ、式場が一瞬にして治安管理的場となる。私は頭(こうべ)をあげ、長い40秒を静かに坐った。最後までやり遂げたという思いが広がる。

30日、停職6ヶ月処分が決定、同日、都教委は渡辺自宅へ

処分発令書を持ってきた。そして、留守宅ポストへ突っ込んで帰った。愚かしい。しかし桁はずれに重い停職6ヶ月処分。31日に定年退職する者に何の意味があるのか。1日分の退職金カットというただ見せしめ萎縮効果のためになされる処分。不当極まりないものだ。断乎抗議する。

通達より7年を経、対面・フロア形式を知らない教職員が半数に及ぶ。採用式で拝礼・斉唱を強要され、続く4年間の「研修」漬けで、都教委・管理職に繋がれる若手教員。業績評価、職階制の導入により同僚性は破壊され、「タイムズ」(パソコン)で全員の都教委に縛られる。閉鎖感、抑圧感で精神疾患は増え続ける。組合は組織率が下がり、職場に力をもてない。いや、日教組はパートナーシップ路線を走り、今年の教研では「日の丸・君が代」レポートはついに1本も出なくなった。大災害をデコに国家が統合・排除を強めようとしている危機的な時代に。

しかし、だからこそ、と言いたい。数は力を頼んだ闘いを問い直し、自立した独りでも闘う強靱な抵抗を真核に据え、広く連帯を求める闘いをする時だ。自分の生のために、闘う過程に実りを得ながら。勝つまで闘い続けていこう。共に!

集会・行動情報 5/1 ~5/15

▶5/1(日) 辺野古に基地を押しつけるな! 新宿ど真ん中デモ~軍隊がTOMODACHI? お断りします◆

13:30事前街頭情宣、15:00デモ出発◆新宿駅東口広場(アルタ向かい)◆沖縄を踏みにじるな! 緊急アクション実行委員会(<http://d.hatena.ne.jp/hansentoteikounofesta09>)

▶5/3(火・休) 2011年5・3憲法集会&銀座パレード◆スピーチ: 三宅晶子(千葉大学教授)、伊藤千尋(ジャーナリスト)、福島みずほ(社会民主党党首)、志位和夫(日本共産党委員長)◆音楽: 寿◆12:30開場、13:30開会◆日比谷野公会堂(JR有楽町駅、東京メトロ霞が関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車)◆主催: 2011年5・3憲法集会実行委員会(TEL 03-3221-4668)

■生命の尊厳、人間の安全保障をめぐって憲法を活かす 施行64周年憲法記念日集会◆講演: 江橋崇(平和フォーラム代表、法政大学教授)、前田哲男(軍事評論家)◆被災地・福島からの訴え◆提起: 藤本泰成(平和フォーラム事務局長)◆13:30~◆日本教育会館3Fホール(東京メトロ・都営地下鉄神保町駅下車)◆主催: フォーラム平和・人権・環境(TEL 03-5289-8222)

■全国憲法研究会・憲法記念講演会◆講演: 滝井繁男(元最高裁判事)、小山剛(慶応大)◆13:30◆東大本郷キャンパス法文1号館25番教室(東京メトロ本郷三丁目駅下車)◆全国憲法研究会(zenkokuken-ippan-renraku@ml.kisc.meiji.ac.jp)

■'11憲法集会 東アジアに戦争を起こすな!◆講演: イ・ヨンチェ(恵泉女子学園大学教員)◆対論: 「日本社会の“貧しさ”の先に」セカンド・チャンス・メンバー×スペースF元スタッフ◆ピアノ・ミニ・コンサート: 栗原千絵◆13:00~◆立川柴崎学習館ホール(JR立川駅南口下車)◆市民のひろば・憲法の会(042-524-9863 [かとう]、042-336-4201 [きど])

■ひろばよう九条のころ、なにわの人情が平和をつむぐ 憲法記念日のつどい◆講演: 高作正博(関西大学教授)

◆落語: 桂吉弥◆13:00開場◆エルおおさか大ホール◆九条の会・おおさか

■自由と生存のメーデー2011——3・11/逃げる・つながる・追いつめる◆集会: 15:30開場◆お話し: 樋口健二(写真家)◆フリーター全般労組事務所(京王新線初台駅東口下車)◆サウンドデモ: 18:30◆新宿中央公園◆主催: 同実行委員会(03-3373-0180)

▶5/7(土) ピーブルズ・プラン研究所緊急ラウンド・テーブル 大震災後の日本——どこへ向かったの『復興』なのか◆色平哲郎、大江正章、武藤一羊◆14:00◆ピーブルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋徒歩7分)◆800円◆主催: ピーブルズ・プラン研究所(03-6424-5748)

▶5/8(日) 生存権フォーラム京都セミナー「自然災害被害者の権利と憲法25条」◆報告: 出口俊一(兵庫県震災復興センター事務局長)◆13:00◆キャンパスプラザ京都2階ホール(京都駅下車)◆主催: 生存権フォーラム

▶5/9(月) シンポジウム 強まる監視・管理社会と共通番号制・コンピュータ監視法を考える◆問題提起: 小倉利丸(富山大教員)、原田富弘(やぶれっ!住基ネット市民行動)◆18:30◆東京しごとセンター5階セミナー室(JR・東京メトロ飯田橋駅下車)◆共催: ネットワーク反監視プロジェクト、盗聴法に反対する市民連絡会、反住基ネット連絡会(TEL 03-5155-4765)

▶5/14(土) 働く者の権利を守る第82回メーデー集会 被災者支援! 今こそ脱原発!◆講演: 石丸小四郎(双葉地方原発反対同盟)、佐藤和良(いわき市議・脱原発福島ネットワーク)、大賀あや子(福島原発40年ハイロアクション)◆13:30◆郡山教組会館2階会議室◆主催: メーデー集会実行委員会(TEL 024-932-2144)

▶5/15(日) 沖縄・生命と暮らしを守る県民大会◆15:00~◆宜野湾市海浜公園野外ステージ◆主催: 沖縄平和運動センター